

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立小木中学校

美しき小木の港を見晴らすかす桜が丘。その丘に凜と建つ小木中学校は、今年度末で静かにその歴史を閉じようとしています。この地に教育の灯が燈つてから67年、今年度末で5316人の卒業生が巣立ちます。

現在、生徒数は79人と少人数ですが、その分、全校体制で行う教育活動が充実しています。また、地域と一体となった教育活動の中で、小木中生は地域の大人の背中を見て成長しています。

子供たちが学ぶ校舎は、建築賞を受賞したこともある美しい建築物です。教室に向かう廊下には、50

年程前の先輩が作成し各種大会で全国一位として表彰された、畳一畳分もある大版画が展示されています。躍



小木中学校

動感ある小木中生の様子や風光明媚な小木の情景が描かれたこの大版画は、小木中生の誇りであり、卒業生の心の原風景です。



宿根木観光ボランティアガイド

今年度で10年目を迎えた「宿根木観光ボランティアガイド」も、小木中生の原風景となるべき活動です。夏休みの土日に行いますが、観光客の多い日は、半日で6回も案内する生徒もいます。厳しい暑さで汗だくになりながら、生徒は笑顔で絶やしません。案内を終えた観光客が出發する場面で、名残を惜しむかのように手を振り見送るその表情は、満足感にあふれています。

平成26年4月から小木中学校は羽茂中学校と統合し、南佐渡中学校としてスタートします。小木中生の皆さんが、小木中で学んだこと、地域の方のご支援への感謝の気持ちを糧に、新しい仲間との友情を深め、南佐渡中学校の新しい伝統と歴史を築いていくことを願ってやみません。

◆教育委員会学校教育課

(両津支所内) ☎23-4898



佐渡ジオパーク

いわやどろくつ 岩屋洞窟(1) —海食洞・縄文文化・霊場—

ジオパーク、推進日記

34

小木半島の宿根木にある岩屋洞窟は、波の作用で浸食を受けた洞窟です。現在海からは離れ、しかも長い石段をのぼりつめた、標高約70mの場所にあるので、波に洗われたという感覚が持ちにくい場所ですが、小木半島が長い間に持ち上がり、およそ8万年前に今の状態になったと考えられています。

この洞窟で約8千年前に縄文時代(早期)の人々が生活をしてきたことが、昭和42年から行われた発掘調査で明らかになりました。これは、佐渡で発見されている縄文遺跡の中で最も古いもので、佐渡に人が住み始めた頃の遺跡と考えられています。



岩屋洞窟

その後、この洞窟は信仰の場として活用されました。洞窟の中には約1千年前に刻まれたと見られている古い3体を含め、8体の摩崖仏があります。

このほか、たくさんのお地藏様や、表情豊かな観音様が並んでいます。お地

蔵様の上段には、中国風の冠を着けた厳しい表情の仏像が並んでいます。これは、人が亡くなった後、7日ごとに生前の行動について裁判を行うといわれている「十王」像で、閻魔大王がその代表です。石仏の十王としては、佐渡では珍しい仏像です。現在も宿根木地域の人々により、毎月念仏がここで続けられています。



石仏

このように岩屋洞窟は、自然の力で作られた洞窟に、大昔の人々が住み着き、やがて信仰の場所として現代に受け継がれています。大地の成立と人の生活や文化を結ぶストーリーをもつ場所として、貴重なジオパークのスポットです。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク

推進室(両津郷土博物館内) ☎23-2101